

## 男子部中等科・高等科

### 「学業報告会 運営グループ」

鈴木 裕大 山本 太郎

2015年度学業報告会で試行した「主体的な学び」を促進するための方策（「異年齢グループ」「自主選択テーマ」「発表・共有方法の選択」）を踏襲しつつ、より「主体的な学び」が深化することを目的として、今年度もいくつかの取り組みを行なった。もっとも特徴的なものは、全校行事で慣例化していた最高学年（男子部の場合高等科3年生）による運営制度を見直し、運営に当たる生徒も「運営グループ」として全学年から公募したことが挙げられる。図らずも、高等科3年生からは希望者がおらず、高等科1年生3名と中等科3年生3名の計6名という、「中間学年」によるメンバー構成となった。本文においては、「運営グループ」による活動の記録を通じて、2017年度学業報告会の総括を行なう。

#### I. はじめに

2017年学業報告会を検討するにあたり、前回の来場者や在校生から提出されたアンケート、教師会内での振り返りから、改善点を洗い出した。とくに注目したのは、

1. ステージ発表とポスターセッションが並行して行なわれており、会場も離れているため、ポスターセッションに来場者が流れず、発表者と来場者ともに満足度の低い結果となっていた。
2. 生徒が自主的に立案したテーマについて、助言、監督する教員がおらず、なかには学びを深められずに不完全燃焼となるグループもあった。
3. 生徒がそれぞれのテーマにあたるため、それぞれの学びは深められるが、テーマ間の相互刺激を促す仕組みがない。

これらの3点である。これらを改善、軽減していくために、以下の方策を講じた。

1. ステージ発表とポスターセッションの時間を分ける。また会場を基本的に記念講堂に統一し、来場者の動線をシンプルにする。
2. 全ての自主テーマにアドバイザーの教員を配置する。
3. 内覧会を行なう。（当日より前に行なっても関心が薄く、狙った効果が達成されにくいと考えたため、翌月曜日に実施した。）

以上の3点をあらかじめ踏まえたうえで、担当教員より6月末に男子部教師会内でテーマを募集

し、並行して生徒に運営グループの募集と方向性の共有を行なった。7月上旬に教員からテーマを回収し、生徒達に公示した。同時期に「運営グループ」のメンバーが固まり、担当教員とのミーティングを定期的に重ねるなかで、どのような学びの期間にしたいのか、そのためになにを行なっていくのか、についてすりあわせを行なっていった。次項以降に活動内容を記す。

#### II. 準備期間の活動内容記録

##### 1. 運営グループでの定例会議

準備期間に先立ち、運営グループメンバーは会議を重ねてきた。主に検討した内容は、

- ・テーマ決定とメンバー決定の方法
- ・招待状の文面作成
- ・記念講堂のレイアウト
- ・当日のスケジュール
- ・準備期間やリハーサルのスケジュールとルール
- ・事前ミーティングの内容
- ・内覧会のスケジュール

など多岐に及ぶ。決定した内容については次項以降に記す。準備期間が始まってからは、毎日解散後に行なうリーダー会議終了後にメンバーで集まって、その日の様子の確認や課題の共有をした。また係り6名を「学習・報告（2名）」と「常務（4名）」に分けた。「学習・報告」グループは、プログラムや当日の進行、事前学習や内覧会などを担

当した。一方「常務」は、会場設営や備品の準備、会計処理、当日の庶務（受付・荷物預かり、コート預かりなど）の割り振りなどを担当した。教員は鈴木が「学習・報告」を、山本が「常務」を主に担当することとし、まめな情報共有を心がけた。  
 <運営グループミーティングの様子>



2. 活動グループ決定

7月の第一回公示を受けて学期末に配布する冊子「夏休み学期」に一覧を掲示し、生徒達が検討できるようにした。公示後すぐに教員に参加を申し出る生徒もいた。夏休み明けに教員からの追加テーマ募集、生徒からの自主テーマ募集を経て、合計26のテーマが集まった。9月末にテーマを公示し、全生徒より第1～第3希望を回収した。募集人員を上回ったテーマについては、担当教員が課題を提示して内容や取り組みを以って選定し、落選した生徒は第2・3希望に回ってもらい、10月18日にメンバーを確定した。

<当日のプログラム>

時間	タイトル
午前の部	9:30 オープニング
	9:45 見えるものと 工作(遠近法、錯視や射影空間を考える)
	9:55 戦国時代の平和
	10:05 How to make music
	10:15 表現するということについて学ぶ～美術の分野を切り口として～
	10:25 スポーツから世界の文化を考える
	10:35 多様性のある社会をデザインする
	10:45 良い情報発信とは何か 日『情報』で一人でも多くの人を『幸せ』に～
	10:54 (予備)
	11:15 ポスターセッション①
	11:40 曲の作り方を学ぶ(楽曲演奏)①
昼休憩	11:45 特設展示①
	11:45 昼休憩
	12:00 昼食開始(申し込まれた方のみ)於:男子部記念ホール
	12:15 報告① 男子部生による男子部生のための昼ごはん
	12:27 報告② Noodle of the World
午後の部	13:00 昼食終了
	13:00 特設展示②
	13:30 曲の作り方を学ぶ(楽曲演奏)②
	13:35 ポスターセッション②
	14:00 温泉同好会
	14:10 世界のコンテンツ産業～みんなが使っているアレも!??～
	14:20 音楽史の解釈と表現
	14:30 演劇を学ぶ 演劇で学ぶ
	14:40 教育と環境からみる日本の課題とその提案～フィンランドでの経験をもとに～
	14:50 「タートルトーク」の裏側
	15:00 日本一の寮を目指して
	15:09 (予備)
	15:15 講評(成田喜一郎氏:東京学芸大学大学院特命教授)
	15:15 パネルディスカッション(成田喜一郎氏・生徒)
15:55 ご挨拶	
16:00 閉会・特別展示③	

ポ ス タ ー セ ッ シ ョ ン	番号	タイトル	会場
	①	個人・対人・集団における心理的影響の分析曰より良い人間関係構築に向けて～	講堂1階
	②	差別～ハンセン氏病から考える隔離的差別～	
	③	小水力発電への挑戦	
	④	武術～空手の歴史・護身術～	
	⑤	The baseball	
	⑥	人間の味覚について	
	⑦	多様性のある社会をデザインする	
	⑧	Rを用いたスポーツデータ解析	
	⑨	過去と現在の遠足について	
	⑩	スポーツから世界の文化を考える	講堂2階
	⑪	見えるもの と 工作(遠近法、錯視や射影空間を考える)	
	⑫	表現するということについて学ぶ～美術の分野を切り口として～	
	⑬	良い情報発信とは何か 曰『情報』で一人でも多くの人を『幸せ』に～	
特 別 展 示	番号	タイトル	会場
	⑭	良い情報発信とは何か 曰『情報』で一人でも多くの人を『幸せ』に～	男子部
⑮	心に訴える映画とは何か		

### 3. 事前学習とミーティング

準備期間の学びの促進を目的として、事前学習とミーティングの機会を設けた。10月21日にはキックオフミーティングを行ない、グループ内でリーダーの選出、方向性のすり合わせ、学習計画の立案、予算の立案、発表方法の検討などを、担当教員を交えて行なった。また助言者を快諾してくださった成田喜一郎先生（東京学芸大学大学院特命教授）には、10月28日に全校生徒に向けて「中高生のための研究入門」と題した講演をしていただいた。準備期間が始まってからも成田先生には複数回男子部にお越しいただき、準備の様子をご覧いただいたり、係りの生徒、パネラーの生徒と打ち合わせをしていただき、アドバイスを頂戴することができた。成田先生は校内で活動していた全てのグループの様子をご覧になったうえで、生徒達の学びが最大化するよう多くのソリューションを提案してくださった。実施後の振り返りのあり方については成田先生のアドバイスを踏まえ大幅に2年前とは変更することとした。

### 4. 当日のプログラム策定

あらかじめ検討していた当日プログラムに10月21日のキックオフミーティングにて、各グル

ープで検討した発表方法の合わせ、全体のプログラムを決定した。

### 5. 各会場設営

#### ・記念講堂レイアウト概要

出入り口は学部側を来場者、初等部側を生徒学生として、双方ともにスリッパあるいは上履きを履いていただくこととした。座席は1Fが来場者、2F学部側が男子部生徒、同初等部側を女子部生徒と区分した。1Fは後方のポスターセッションブースを確保するために、4列ずつベンチを撤去した。2F分奏室（学部側）、記念室（初等部側）も借用し、ポスターセッションや展示で立体的な作品を置いたり照明や音声を使用することを希望しているグループを吸収した。

#### ・ステージ

以下のように設備を配置した。

プロジェクター：EPSON超短焦点型プロジェクター（男子部理科室から借用）

PC：WINDOWSのDELL社製ノートPC（男子部講師用）

音響：アンプ（男子部楽器庫から借用）

接続：VGA20mケーブル（学部から借用）

<ステージレイアウトの概観>



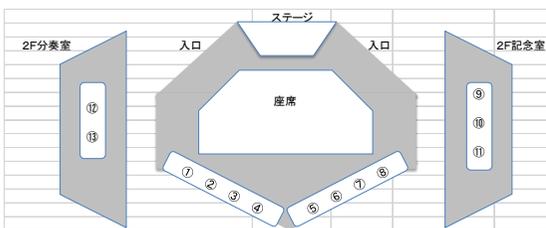
・パネルディスカッション

登壇生徒4名と成田先生、ファシリテーター（更科部長）の6席分の長机、六角椅子（1脚は女子部から借用）、テーブルクロス（衣類整理館から借用）、名札をセットした。

・ポスターセッション

ポスターセッションを希望した13グループについては、下図のとおり、①～⑧を講堂1階に、2階記念室に⑨～⑪を、同じく分奏室に⑫～⑬を配置した。

<ポスターセッションレイアウト略図>



1階のブースは、美術科が保管している木造パネル(2.44×0.91m)を組立て、コの字に配置した。ポスターを貼る高さは2.00mに統一した。また模造紙に手書きする以外に、一部のポスターはPCで作成して、総合企画室のご厚意によりA1サイズで印刷した。

<1階ブースの概観>



2階のブースを設営するにあたっては、使用している部署に承諾をとり、インテリアを片付けて広いスペースを確保した。女子部学業報告会の常務サポートグループと連携して段ボールパネルを設置した。どちらの部屋とも空間の奥行きや高さを活かした、1階とは趣の異なる展示方法を模索することができた。

<2階ブースの概観>



・特別展示

原則として記念講堂内での展示を原則としたが、特別な申し出のあった3グループについては、男子部内での展示を行なった。

6. 準備期間の活動

10月30日(月)から11月9日(木)までを準備期間として、通常授業を無くしてグループごと

で活動した。準備期間を迎えるにあたっては、

- ・道具の貸し出し
- ・活動場所
- ・校外学習
- ・活動費の支払い

等について決定し、準備期間初日のミーティングで全校に周知した。調べ学習に不可欠なインターネット環境については、8:00~16:30のあいだ、誰もがアクセスできる無線LAN回線を準備したほか、学校保管のノートPC類を情報室に常設し、係り生徒の監督のもと使用できることとした。私物の電子機器類もルールを定めた上で使用を認めた。各グループの活動が始まると、運営グループのメンバーは、

- ・道具の貸し出しと返却担当
- ・情報室の管理担当
- ・巡回担当（写真撮影兼務）

を分担してトランシーバーで連絡を取り合いながら活動した。また前項に記した会場の設営、アナウンス文の検討、アンケート用紙の作成なども並行して行なった。毎日の放課後には各グループのリーダーを集めて、情報共有に努めた。11月6日（月）からは講堂内での活動が可能となったため、ステージでの練習や展示物の設営がスムーズに行なえるよう、調整する役目も担った。ステージ発表には係りの生徒が同行し、時間計測や発表内容へのアドバイスをを行なった。

また、各グループの取り組みを内外に発信する試みとして、

- ・準備の様子を学園HPにアップする
- ・「輝いていた人」を独自に選定して毎日の昼食で報告する

ことを行なった。

当日の1週間前から記念講堂を貸し切り、展示の準備とステージ発表の練習を行うことができた。ステージ発表のグループは月曜日から水曜日まで練習を行なった。調整は運営グループが行ない、出入りの指導や報告時間の確認などを立ち会って行なった。

木曜日にはリハーサルを行なった。アナウンスや出入り、プロジェクターの切り替えなどの最終確認を、緊張感のあるなかで行うことができた。前日はグループの活動はせず、校内の清掃や常務

の準備に充てた。リハーサルまでのプログラムを丁寧に組んだことから、余裕を持って当日に臨むことができた。しかし展示物の搬入は前日の夜遅くまでかかった。運営グループやアドバイザーの教員が追いきれなかったことも一因だが、期日遵守の感覚や計画性の欠如と言った男子部の課題を反映している結果であったとも言える。

## 7. 広報活動、申し込み対応

今年度より、申し込みをWEBに一本化することとした。広報本部に依頼して、学園HP上に申し込みフォームと特設バナーを設置した。

<特設バナー>



申し込みフォームの区分は

- ・在校生保護者（初等部含む）
- ・受験希望者
- ・一般

に大別した。

学園からのご招待者には別途招待状をお送りした。

受験希望者には広報本部発送物にチラシを同封したが、地域の施設や教育関係への積極的な外部広報は行うことができなかった。

当日に来場者に配布するプログラムは前回同様に橋隼人先生のグループが情報発信の学びを兼ねて請け負ってくださった。高1と中2の生徒が納期期限ぎりぎりまで試行錯誤を重ね、満足のいくものが仕上がった。（詳細はグループの報告欄参照）800部を発注し、学内各部署100部、女子部と男子部の全生徒分400部を事前に配布し、300部を当日受付で配布した。残数はわずかで、発注数としては適切だったが、今後広報活動を拡大する際には、より多くの部数を発注することが望ましい。

## 8. 常務組織

運営グループでは回しきれない各種の実務を請け負う常務組織を募った。

- ・「受付」「コートかけ」「荷物預かり」  
当初行なった全体への公募では希望人数を充たさなかったため、高等科3学年に人数を提示し、選出してもらうこととした。
- ・「記念講堂」「掲示」  
自治区域の生徒が行なった。

- ・「テーブルマスター・配膳」  
食事作りグループの生徒が行なった。
- ・「記録」  
通年で活動する記録グループの生徒が行なった。

< 常務組織一覧 >

2017年度学業報告会常務一覧			
2017/11/15			
項目	生徒	教職員	内容
総括	委員長(鈴木6)・副委員長	更科	
学習・進行	別所・川嶋	鈴木裕大	学びの促進・当日の進行準備・ステージコーディネート
常務	渡邊	山本太郎	常務一般
会計	渡邊	山本太郎・鈴木佳枝	予算把握と支出管理
道具	内藤・各係り1名	内田	マジック・ガムテープ・模造紙など用意・管理
会場設営(ステージ・ポスターセッション)	北村・安村	鈴木裕大・山本太郎	割り振り、パネル、案内掲示、コーディネート他
準備場所	北村・安村	山本太郎	割り振り、管理
プロジェクター・PC・PPT・WIFI	内藤	鈴木裕大・橋・太郎	各会場の必要台数把握・管理
記念講堂(会場)	6名	武田・(三家)・新井	カーテン開閉・スリッパ・誘導・席つめ・傘袋・床暖房
校内整備(自治区域)	学校主任(佐藤6)	前原・酒井・幸右	
受付	小林6・波多野・鷺田・小林多・赤木・運営1名	山縣・菅野・武田・鈴木佳枝	申込集計・名簿作成・釣り銭用意・当日受付・食券販売
申し込み	—	山本太郎・藤・橋	申し込みフォーマット作成・WEB掲載
招待状(カバレター)	—	武田・山本太	受験希望者向け招待状、来賓向け招待状作成と発送
チラシ・ポスター	—	広報本部・武田・裕大・太郎	受験希望者・保護者向け発送と掲示
プログラム	岩佐(立案:川嶋)	橋	プログラム作成・印刷入稿・受付で配布
食	三崎	石田	食数確認・発注
食券	三崎	前原	食券作成・受付との確認・ホールでの食券回収
記念ホール	ホール主任・吉田	角田	清掃・会場作り・スリッパ
コートかけ	平井6・竹中5・石橋4	濱野	記念ホール前で預かる・預かり札
テーブルマスター・配膳	食事作り生徒・前原グループ	石田	座席割り
生徒・教員の食事(寮)	食主任	真野・鈴木佳枝	
掲示	木工所	酒井	誘導掲示(プログラム・常務と連携)立ち入り禁止掲示・トイレ掲示
広報	広報の係り	広報本部・武田	個別相談会運営(会議室・応接室使用)・受験希望者対応
荷物預かり	松下6・幼方5・安島4・中川4	内田	総務部使用
来賓対応	渡邊	更科	成田先生・ほか
駐車	駐車の係り	高田	
記録	記録の係り		

Ⅲ. 当日の活動内容記録

生徒は通常通り登校し、係りの礼拝のあと校内の清掃を行なった。開場後はプログラムに沿って進行したが、以下の差異が生じた。

1. 午前の部がプログラムより早い時間で進行したためポスターセッションの時間に余裕が生じ、来場者が丁寧に各ブースを回ることができた。しかし昼食の用意は直前まで行なったため、早めに

昼食会場に移動した来場者を長い時間屋外でお待ちさせることになった。

2. 午後の部は時間が超過し、閉会を30分ほど遅らせることとなった。ステージ発表の各グループの超過時間に加えて、パネルディスカッション・閉会の辞も大幅に超過したことが含まれる。入試の個別相談を希望した受験希望者に、時間変更を伝えることができなかったことも相まって、閉会

前に席を立たれる方が出てしまった。

閉会後は会場の片づけをして解散とした。

#### IV. 内覧会

週明けの月曜日午前中に、全校生徒による内覧会を行なった。報告会当日までは自分の発表、研究に没頭して、他のグループの学びから何かを得ようとするマインドが生じにくいことを考慮し、報告会後に実施することとした。ステージ発表に加えて、ポスターセッションや特別展示も時間をかけて閲覧することができた。午後には記念講堂を含む会場の現状復帰(翌週に女子部の学業報告会が行なわれたため、パネル等の大部分は現状維持となった)と、振り返りを行なった。

内覧会を実施することで、自分の選択したテーマに留まることなく、他のテーマからも刺激を受けたという生徒がいたことは嬉しい成果だった。

#### V. 振り返り

全校生徒には終了後に振り返りを実施した。成田先生から、多様な学びの振り返りは多様な方法で行なったほうがよい、という趣旨のご助言をいただき、よく行なわれるような文章での振り返りだけでなく「俳句」「イラスト」「漢字一文字」も選択できることとした。またそれらで表現する場合には、「解題」を加えることとした。結果は次のとおりである。

生徒数	176
有効回答	166
文章	18
俳句	6
イラスト	12
漢字	130
漢字種類	88

2人以上が選んだ漢字	
楽	15
学	7
笑	5
表	3
疲	3
努	3
難	3
愛	2
動	2
美	2
考	2
苦	2
知	2
食	2
伝	2
良	2
寮	2

多くの生徒が直感的かつ時間のかからない「漢

字」での表現を選択したが、漢字の種類は88種類と非常に多岐にわたる結果となった。複数の生徒が選んだ漢字を上記の表に列挙した。

「食」「寮」など、取り扱ったテーマをそのまま漢字に表した生徒もいる一方で、「疲」「難」「苦」などの文字からは、彼らの探究活動やグループ活動が、順風満帆ではなかったことが伺える。

そのなかで、「楽」(15名)、「学」(7名)、「笑」(5名)といった文字が多く選ばれたことも今回の様子をよく表しているのではないかと感じる。

文章の振り返りからはページ数の関係から3名を紹介するにとどめる。

##### ・高3A (映画表現)

「研究というより自身で考え表現したという感じだった。表現はいつでもできるが、多くの人に見てもらえる機会はそうない。そういう機会を提供してくれ、思い切り好きなことに打ち込ませてくれるのだからこの行事は意義深いものと思った。素直に、人に批評してもらって嬉しかった。」

##### ・高3B (比較文化論)

「今後の男子部で、学び続けること、学びとは何かを考えて実行すれば、ものすごく良いものになる！今回の皆の研究は本当に素晴らしかった。」

##### ・高2C (多様性社会)

「自分の好きなこと、本当に学びたいことを学ぶというのは本当に楽しいものだと思った。『楽しい』というのは“fun”ではない。決して楽ではない。しかし、自分の学びたいことについて新しいことを学んだり、気づいたりすると楽しい。学びを深める時間にすることができた。これは提案だが日頃からこのような期間をもってほしい。いたずらに時間を捨てるならよほど公立校のほうがましではないか。現状に対してそう思う。具体的には午前を必修科目、午後は選択科目というように、日頃から主体的に学ぶ習慣をつけられるような授業、カリキュラムを求める。」

#### VI. 次年度以降への提言

1. 「学業報告会」という行事に対しての提言  
行事としての質と量を担保するために以下の2案を提言する。

A) 2日間開催

理由：テーマ数の増加に対応した時間確保

課題：食事提供担当・運営担当の負担増

解決案：土日開催・月曜日代休

#### インターン導入

理由：テーマ指導教員、アドバイザー教員の負担軽減と生徒の学びの質の担保

課題：派遣学生の質の担保・派遣学生の評価

解決案：大学院研究室や大学教職ゼミとの連携

## 2. 主体的な学びの促進に対する提言

学業報告会期間中の生徒の満足度は高く、普段はなかなか見ることでできない生き生きとした表情に出会えることも多い。その理由として考えられることは、

- ・テーマを自分で選んだこと
  - ・同じ目的、指向性を持つ集団に属していること
  - ・細切れの時間割ではなく落ち着いて一つのテーマを深められること
  - ・グループでスケジュールを決定できること
  - ・異年齢集団を形成することで、同質であることが求められず、違いや能力差を前提とした状態が担保されること
- などが考えられる。

一方で、体操会や遠足などといった行事と比べても通常の授業との親和性が高い行事ではあるにもかかわらず、現状としては、イベントとして日常と乖離した学習形態になっている。今回の取り組みに対して学習の有効性を検証したうえで、カリキュラム作成において探究活動、異年齢グループ活動を推進し、日常の学びに落とし込んでいくことを強く提言したい。そのような学び方が日常のなかで定着し始めたときに、行事としての「学業報告会」の使命は終わったと言えるのではないか。

## VII. 謝辞

東京学芸大学大学院特命教授(18年度より自由学園最高学部/学校改革推進室に赴任)の成田喜一郎先生には立ち上げ段階での教員との打ち合わせから、グループメンバー生徒との複数回に及ぶディスカッション、全校生徒への事前学習、準備期間中の視察、当日の講評と、全面的にご支援

いただいた。この場を借りて心より感謝申し上げます。

また、学内各部署、とくに広報本部、食糧部、女子部、リビングアカデミーの皆様方には、拙い運営でご迷惑をおかけすることもあったが、温かくお支えいただいたことで、期間中の活動をつつがなく行なうことができた。併せて感謝申し上げます。

最後に、今回の年報には諸般の都合から教員が直接担当したグループしか掲載できず、生徒の自主グループ(アドバイザーとして教員が関与)の実施報告が成されていないことが残念であるが、大小併せて26ものグループの活動にご協力くださった学内外全ての皆様に厚く御礼申し上げて本稿の結びに代えさせていただきます。